

札幌市こども人形劇場こぐま座 令和4年度管理業務報告書

1 管理業務の実施状況

項目	実施状況	評価・反省												
1. 管理の基準														
(1)開館時間及び休館日	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 5%;">1</td> <td style="width: 15%;">開館時間</td> <td>午前8時45分から午後10時まで。ただし、日曜日は午前8時45分から午後5時まで</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>休館日</td> <td>(1)月曜日(当該月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日にあたるときは、当該月曜日後最初に到来する同法に規定する休日以外の日) (2)12月29日から翌年1月3日まで</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>開館日数</td> <td>289日</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>休館日数</td> <td>76日 (アスベスト除去工事に伴う臨時休館23日を含む)</td> </tr> </table>	1	開館時間	午前8時45分から午後10時まで。ただし、日曜日は午前8時45分から午後5時まで	2	休館日	(1)月曜日(当該月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日にあたるときは、当該月曜日後最初に到来する同法に規定する休日以外の日) (2)12月29日から翌年1月3日まで	3	開館日数	289日	4	休館日数	76日 (アスベスト除去工事に伴う臨時休館23日を含む)	/
1	開館時間	午前8時45分から午後10時まで。ただし、日曜日は午前8時45分から午後5時まで												
2	休館日	(1)月曜日(当該月曜日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日にあたるときは、当該月曜日後最初に到来する同法に規定する休日以外の日) (2)12月29日から翌年1月3日まで												
3	開館日数	289日												
4	休館日数	76日 (アスベスト除去工事に伴う臨時休館23日を含む)												
(2)施設使用の承認について	・札幌市こども劇場条例及び札幌市こども劇場条例施行規則に基づき、実施した。													
(3)利用の制限に関する事項	・該当事例なし。													
(4)札幌市個人情報保護条例の適用について	・個人情報の取り扱いについては、札幌市個人情報保護条例に基づき適正に処理を行った。また、個人情報の開示の要望はなし。													
(5)札幌市情報公開条例の適用について	・該当事例なし。													
(6)札幌市行政手続条例の適用について	・札幌市行政手続条例に基づき適正に処理を行った。													
(7)札幌市オンブズマン条例の適用について	・該当事例なし。													
(8)札幌市暴力団の排除の推進に関する条例の適用について	・札幌市暴力団の排除の推進に関する条例に基づき、適正に処理を行った。該当照会実績なし。 (使用承認申請書での確認、協定に関連する契約業者の確認)													
(9)障害者差別解消法の適用について	・障害者差別解消法を踏まえた、札幌市の対応方針及び接遇要領に基づき、合理的配慮等の利用者対応を行った。													
2. 統括管理業務														
(1)管理運営業務の基本方針の策定	『未来ある子どもたちの夢をはぐくむ劇場づくり』 札幌市こども人形劇場こぐま座は、「人形劇、児童劇等の制作及び発表と制作団体の育成を通じて、青少年の情操のかん養を図り、もってその健全な育成その他の活動に資すること」を目的に設置された施設である。 全国的にも珍しい子どものための専門劇場であり、子どもたちが人形劇や演劇等に親しみ、笑顔あふれ、夢を持って育つことを願い、運営を行うことを基本方針として策定した。	・施設設置の理念に基づき、基本方針を策定した。市民にとっての劇場のあり方と、地域における劇場の役割を具体化し実践した。また、当方針を達成するため全職員が意識を1つにして、親しみやすい劇場作りに努めた。												
(2)平等利用の確保に向けた考え方と取組	人形劇や演劇等、子どもたちのために舞台表現活動を行う団体に対しては、幅広く受け入れ優れた作品を安価で上演できることを劇場運営の基本方針とした。劇場職員は、観客である子どもとその家族を温かく迎え入れ、親しみやすい雰囲気を作ると共に、上演する団体の支援者となることに努めた。													
(3)地球温暖化防止対策及び環境配慮の推進	環境行動マニュアルに基づき、環境に意識し業務を推進した。観客に無理のない範囲で冷暖房の節約を行い、電気量の節電など環境に配慮した取組を行った。	・環境行動マニュアルに基づき、各エネルギー(電気、水道等)の節約に努め、施設運営を行った。												

(4)管理運営組織の確立

①責任者の配置、組織整備

- ・統括責任者1名配置。
- ・事務分掌、緊急連絡体制等を定めた。

②従事者の確保・配置

・職員の配置体制

統括責任者	1名	統括責任者(やまびこ座・こぐま座兼務)
職務代理者	1名	こぐま座の管理運営責任者(中島児童会館兼務)
事業指導担当者	1名	/
舞台技術担当者	1名	
事業担当補助者	1名	
計	5名	

・管理業務を適切に行うため、人形劇や児童劇、舞台、照明、音響に係る専門職員をはじめ、管理に係る職員を適正に配置し、組織を確立した運営を行った。

③人材の育成

(1)派遣研修(劇場運営関係)

全国人形劇関係機関及び児童文化関係施設との連携を密にすることで、職員の専門知識向上に努めた。

- ・こども文化セミナー参加
8月27日(土)
1月21日(土)～22日(日)職員4名
- ・こどものまなび塾参加
Ⅰ期:9月2日(金)～17日(土)
Ⅱ期:9月30日(金)～10月15日(土)
Ⅲ期:10月19日(水)～22日(土)
Ⅳ期:12月8日(木)～1月15日(日)職員4名
- ・継続被災地支援活動(福島県)参加
9月21日(水)～26日(月) 職員1名
3月20日(月)～27日(月) 職員1名
- ・「子どもと舞台芸術の大博覧会inKOFU」シンポジウム参加及び子どものための文化施設の視察
7月30日(土)～8月1日(月) 職員1名
- ・北海道シアターカウンスルプロジェクト
シンポジウム「文化芸術は誰のもの？」8月2日(火) 職員1名
- ・障害のある人と芸術文化活動に関する大見本市 参加
2月10日(金)～11日(土) 職員1名
- ・一般社団法人日本音響家協会「音響家技能認定講座ビギナーコース」
2月15日(水) 職員1名

(2)こどもの劇場・こども人形劇場職員研修

- ・職員研修
人形劇ゼミナール(人形劇指導研修)※児童会館部門と共同
4月27日(水)～7月18日(月・祝) 職員4名
- ・将来構想/広報戦略プロジェクト
通年 職員4名

(3)公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会職員研修

- ・コンプライアンス研修
- ・職位階層別研修
- ・目標管理制度
- ・個人情報保護研修
- ・評価者研修

・劇場職員として専門性を高めるため、児童文化関連施設や各種事業・研修会に職員を派遣し、職員一人ひとりが創造者として利用者と関わるべく多様な場で研鑽に努めた。

・職員研修(人形劇ゼミナール)を児童会館部門の職員と共に行ったことで、子どもたちとの創作活動における指導のポイントや劇場の業務理解が深まった。劇場課職員・児童会館部門の職員双方にとって、施設利用者のニーズに応える市民サービスの向上につながったといえる。

・2つのテーマにおける課題の洗い出しと業務改善を行うプロジェクトにより、劇場職員としての意識向上と、人材育成の両面から成果に結びつけることができた。

・公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会職員研修計画に基づき、各職員の資質向上を目指した研修を実施した。

(5)労働関係法令遵守、雇用環境維持向上

- ・職員の勤務時間を適正に管理するため「勤怠管理システム」を導入し、法令遵守に結び付けた。
- ・職員の健康管理に係る取組みとして、産業医を導入した。
- ・法令に基づき、時間外労働または休日労働させる場合の労使協定(36協定)を労働者と締結し、労働基準監督署に届出を行った。
- ・職員の勤務形態、家族状況等に応じて年金保険、医療保険に加入。また、必要に応じて適正に届出等を行った。
- ・常勤職員のほか1年以上の有期雇用者に対して、1年に1回定期健康診断を実施したほか、再検査の費用負担を行った。
- ・正規職員を新たに雇用する際、現在の非正規職員から希望者を募り、内部登用試験を実施した。
- ・労災保険加入と、条件を満たす労働者を雇用保険に加入した。
- ・法人として全ての常勤職員を対象にストレスチェックを実施した。
- ・新型コロナウイルス感染症の対策として、引き続き、事務室の飛沫防止アクリル板の設置や定期的な消毒、入場前の検温チェック、会場対応での防護用品の使用等で感染リスクを低減した労働環境を整備した。

・労働関係法令に関する理解を深めると共に、雇用環境の維持向上に向けた取組を行うことができた。

・新型コロナウイルス感染症対応では、職場環境の整備と、可能な限り出勤時間を調整する取組により、安心して仕事ができるよう努めた。

(6)管理水準の維持向上に向けた取組	<ul style="list-style-type: none"> ・財団ネットワークシステムを活用した情報共有や都度ごとの担当者会議、定例的な職員会議を実施し、管理水準の向上に努めた。 ・日常業務のブラッシュアップを行い、業務効率の向上を図った。また、施設点検による安全面の確認を随時行った。 ・職員によるプロジェクトを組織し、職員一人ひとりが業務の質を上げ、先見的な方向性を打ち出せる人材の育成を目指した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・財団内の他部門との情報共有や協働実施を行い、より質の高い事業展開に結びつけることができた。 																		
(7)第三者に対する委託の方針	<p>第三者に対する委託業務の実施状況</p> <p>・下記の業務について、第三者に対する業務委託を行い、当該契約に基づき、必要な指導、指示及び検査を行った。</p> <table border="1" data-bbox="384 443 1098 600"> <thead> <tr> <th>業務名</th> <th>契約業者名</th> <th>実施月</th> <th>契約方法</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 舞台設備(吊物・照明・音響)保守点検業務</td> <td>株式会社池下電設</td> <td>3月</td> <td>随意契約(特命)</td> </tr> </tbody> </table>	業務名	契約業者名	実施月	契約方法	1 舞台設備(吊物・照明・音響)保守点検業務	株式会社池下電設	3月	随意契約(特命)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の良い維持管理のため、年1回の舞台設備保守点検業務を実施した。 										
業務名	契約業者名	実施月	契約方法																	
1 舞台設備(吊物・照明・音響)保守点検業務	株式会社池下電設	3月	随意契約(特命)																	
(8)札幌市及び関係機関との連絡調整等	<table border="1" data-bbox="384 658 1098 1458"> <thead> <tr> <th>開催回</th> <th>開催日</th> <th>協議・報告内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>運営協議会(第1回)</td> <td>(書面開催)</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度事業報告(上半期) ・セルフモニタリング報告(上半期) ・今後の事業展開や施設運営について ※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面による報告と意見集約を実施した。 </td> </tr> <tr> <td>運営協議会(第2回)</td> <td>3月15日</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度事業報告(下半期) ・セルフモニタリング報告(下半期) ・第5期(令和5～9年度)指定管理期間の事業展開や運営について ・今後の事業展開や運営について </td> </tr> <tr> <td>業務・財務検査</td> <td>3月9日</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・業務検査 ・財務検査 </td> </tr> <tr> <td>利用者説明会</td> <td>3月16日</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・こぐま座・中島連携事業報告 ・こぐま座事業報告 ・施設の利用について ・コロナ禍の影響と今後の運営について </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> <協議会メンバー>札幌人形劇協議会代表、東区市民劇団オニオン座代表、やまびこ座読み語りの会代表、小樽商科大学特認名誉教授、札幌市子ども未来局子どもの権利推進課長、札幌市こどもの劇場館長、札幌市子ども人形劇場館長 </td> </tr> </tbody> </table>	開催回	開催日	協議・報告内容	運営協議会(第1回)	(書面開催)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度事業報告(上半期) ・セルフモニタリング報告(上半期) ・今後の事業展開や施設運営について ※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面による報告と意見集約を実施した。	運営協議会(第2回)	3月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度事業報告(下半期) ・セルフモニタリング報告(下半期) ・第5期(令和5～9年度)指定管理期間の事業展開や運営について ・今後の事業展開や運営について 	業務・財務検査	3月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・業務検査 ・財務検査 	利用者説明会	3月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・こぐま座・中島連携事業報告 ・こぐま座事業報告 ・施設の利用について ・コロナ禍の影響と今後の運営について 	<協議会メンバー>札幌人形劇協議会代表、東区市民劇団オニオン座代表、やまびこ座読み語りの会代表、小樽商科大学特認名誉教授、札幌市子ども未来局子どもの権利推進課長、札幌市こどもの劇場館長、札幌市子ども人形劇場館長			<ul style="list-style-type: none"> ・運営協議会を設置し、委員へ事業実施状況等の報告を行い、施設運営についての意見交換を行った。 ・札幌市による業務・財務検査を受け、業務改善に努めた。 ・利用者説明会では、新型コロナウイルス感染拡大防止のための劇場ガイドライン改訂後の対策と利用方法についても説明を行った。
開催回	開催日	協議・報告内容																		
運営協議会(第1回)	(書面開催)	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度事業報告(上半期) ・セルフモニタリング報告(上半期) ・今後の事業展開や施設運営について ※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面による報告と意見集約を実施した。																		
運営協議会(第2回)	3月15日	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度事業報告(下半期) ・セルフモニタリング報告(下半期) ・第5期(令和5～9年度)指定管理期間の事業展開や運営について ・今後の事業展開や運営について 																		
業務・財務検査	3月9日	<ul style="list-style-type: none"> ・業務検査 ・財務検査 																		
利用者説明会	3月16日	<ul style="list-style-type: none"> ・こぐま座・中島連携事業報告 ・こぐま座事業報告 ・施設の利用について ・コロナ禍の影響と今後の運営について 																		
<協議会メンバー>札幌人形劇協議会代表、東区市民劇団オニオン座代表、やまびこ座読み語りの会代表、小樽商科大学特認名誉教授、札幌市子ども未来局子どもの権利推進課長、札幌市こどもの劇場館長、札幌市子ども人形劇場館長																				
(9)財務(資金管理、現金の適正管理)	<ul style="list-style-type: none"> ・資金管理については、指定管理業務、自主事業ごとの区分経理を実施した。 ・金銭等の取扱いについては、当財団が定める処務規定及び財務規程、金券等取扱要領に基づき、適正に経理事務を行った。 ・当財団における内部監査の実施や、公認会計士による外部監査を導入した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現金の取扱いについて、複数職員による確認を行い、金銭事故防止に努めた。 																		
(10)要望・苦情対応	<ul style="list-style-type: none"> ・「迅速・適切・真摯・平等」で「利用者の立場に立つ」対応を心がけた。 ・意見箱を設置し、日常的に市民の声を聞くことができる環境を整えた。 ・ご意見・ご要望については職員会議にかけ、迅速に対応した。(令和4年度については、意見箱への要望・苦情は無し。) 	<ul style="list-style-type: none"> ・直接いただいたご意見については、職員間で内容を共有し、原因分析を即座に行って丁寧な説明を行った。 																		
(11)記録・モニタリング・報告・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・業務実施に関する記録、帳簿等の整備、記録保管に努めている。(業務日誌、設備点検記録、事業記録、経理書類、現金出納簿等) ・劇団及び観客、事業参加者に対し、アンケート調査を実施し、常に市民からの声に耳を傾けている。 ※アンケート調査結果の詳細は「2 アンケートのまとめ」参照 	<ul style="list-style-type: none"> ・セルフモニタリングにより自己評価を行い、今後の事業運営につなげた。 																		

3. 施設、設備の維持に関する管理

(1)維持管理業

・利用者等の安全確保を第一に優先し、市民サービスの向上を図った。また維持管理計画の下、日常点検を行い対応を図った。

① 清掃業務

	区分	実施状況	実施日
1	定期清掃	中島児童会館と複合施設であるため、中島児童会館の第三者委託業務により実施した。 契約業者：太洋美装(株)	通 年
2	日常清掃	職員で対応した。また、公演時には劇団の協力を得て実施した。	通 年

② 警備業務

	実施状況	実施日
1	中島児童会館と複合施設であるため、中島児童会館の第三者委託業務により実施した。 契約業者：北幹警備保障(株)	通 年

③ 修繕工事の実施状況

	修 繕 内 容	修繕日
1	西面外部角波鉄板隙間処理	11月9日
2	屋外階段蹴上モルタル撤去、仮補修	1月17日

④ 備品管理

《購入備品》

	物品名 (帰属)	数量	購入年月日	金額
1	サンプラー (活動協会)	1	3月30日	79,860円

⑤ 駐車場管理

・劇団等の施設利用者に対し、車両進入許可証を発行し、公園内での事故等に十分注意し、関係者以外の進入を防げるよう努めた。

⑥ 外構緑地管理、除雪作業

・敷地内の植木、除雪については、美観の保持、安全面、近隣住民への配慮等の点から、適切な維持管理を行った。

・日常的に施設及び設備について機能全般の良好な維持に努め、市民が利用しやすい施設運営を行った。

・日頃より館内の見回り、点検を行い、破損や故障等は、速やかに報告・修理した。

・市民の利用に支障が生じることのないよう、日頃より点検、清掃等を行った。
・故障や劣化の著しい備品については、新規購入し、維持管理に努めた。

・駐車場を利用する劇団利用者に対して、安全確認および注意を促すことで、公園内の安全確保に努めた。

・中島児童会館及び中島公園管理事務所と連携し、日頃より適切な維持管理を行っている。特に問題はなかった。

(2)防災業務

① 防災計画と組織

・防災計画を定め、自衛消防組織を設置し、有事の際の迅速な対応に備えた。

② 防災訓練の実施

・中島児童会館と、2施設共同の防災計画・緊急連絡体制を定めた。

避難訓練実施

①5月18日(参加人数17名) ②11月12日(参加人数16名)

③ 状況に応じた情報収集及び事故発生時の対応

・関係機関からの情報収集と館内利用者への正しい情報提供に備え、事故対応に努めている。

・事故防止に備えた日常的な訓練等による危機管理体制を整え、賠償保険にも加入し不測の事態に備えた。

・災害や利用者の傷病に対する対応については、常日頃より気を配り、突発的な事態にも対応できるよう事前の準備を心がけた。

4. 事業の計画及び実施に関する業務

(1)児童文化の普及及び子どもの健全育成のための公演・展示会・講座等の開催に関する業務

・令和4年度も新型コロナウイルス感染症の拡大防止と社会経済活動再開との両立に苦慮する中で、公演や事業への動員数やイベントの縮小等、引き続き影響を受けながらの事業運営となった。
・令和3年度中止となった「こぐま座開館45周年記念『サイトスペシフィック・パフォーマンス〜コロポックル・シンパヤ〜』」を6月に実施することができた。中島公園内の各所に屋外ステージを設置し、様々な演目を移動しながら観劇するという事業内容は、参加者にコロナ禍の閉塞感を忘れさせ、純粋に劇と自然と人とのふれあいを楽しむ機会とすることができ、好評を得ることができた。
・外部団体や専門アーティストと協働し、障がいのある子どもたちと創る「北のおばけ箱」の創作や、近隣小学校の特別支援学級との人形劇創作活動に新たに取り組んだ。
北海道からの依頼で制作した幼児向けアイヌ文化理解に向けた人形劇を全道各地で巡回公演する依頼を受けたことにより、全道各都市への普及啓発活動を展開できる良い機会となった。

【公演事業】

・コロナ禍において「密を避けて安全に劇を楽しむ」ための工夫として行ってきた野外人形劇シリーズ(「ピクニックシアター」「あおぞらキッズシアター」「ほしぞらキッズシアター」「冬の野外劇場」)を令和4年度も実施した。令和4年度は公演だけではなく、ワークショップや工作など遊びの要素を加えることでプログラムをさらに充実させることができた。
・学校の長期休みに合わせ、普段あまり観ることができない道外の専門劇団を招聘し、特別公演を実施した。

【講座事業】

・人材育成事業「初心者のための人形劇講座」は2年ぶりに全て対面式で開講し、2劇団が誕生した。また、財団内の職員研修「人形劇ゼミナール」(人形劇指導者向け講習会)からも新たな劇団が誕生するなど、職員の育成の観点からも大きな成果があったと言える。
・これまで、やまびこ座・こぐま座で開講してきた「経験者のための人形劇講座」の一環として、若年層の人形劇団を対象とした「バベットカレッジ」を実施した。若い世代の劇団の育成、継続的な活動を支援することを目的とし、大学生、社会人になっても自立した劇団活動を行い、良質な作品づくりに取り組める力をつけられるように支援をすることが、劇場の公演活動を担う人材を育てるために必要である。

【子どもの舞台表現活動の推進】

・子どもたちの体験機会が減少している現代で、こぐま座、やまびこ座と札幌市内の児童会館が連携し、「児童会館人形劇クラブ活動」を継続して行ってきたことで、少しずつ児童会館での人形劇活動が増えてきている。令和4年度は、国際人形劇連盟(UNIMA)が定める『世界人形劇の日』に合わせ、第1回目となる『札幌市児童会館人形劇フェスティバル』を実施した。札幌市内の児童会館人形劇クラブの子どもたちが一堂に会し、人形劇の連続公演や交流会を実施した。子どもたちのいきいきとした姿や表現の可能性を広く発信する機会とし、これまでの取組から一歩進み、より広がりを持った事業展開をすることができた。
・公益財団法人北海道演劇財団と協働で障がいのある子どもたちと創る「北のおばけ箱2」制作・公演を行った。児童デイサービスに通う子どもたちとやまびこ座・こぐま座で育成してきた子どもたちと共に制作し、劇中に手話通訳者が通訳をしながら演じる「ムーブアラウンド方式」を取り入れユニバーサルな舞台を披露することができた。やまびこ座・こぐま座が関わってきた子どもたちの成長が表れた舞台となり、観客に感動を与える事業となった。
・令和4年度は新たに、特別支援学級との人形劇創作活動に取り組んだ。今後重点的に取り組む社会課題の解決に向けた取組の一つとして、その足がかりとすることができた。

・コロナ禍においても、各劇団と協働し、多くの市民に観劇や文化芸術体験の機会を守ろうと事業を積極的に行った。しかし、札幌市内の感染状況が悪化していた時期には、プログラム内容の一部変更・縮小、収容率等による人数制限が影響したと言える。
・文化芸術が人に与える影響の大きさや重要性、子ども文化施設としての役割を改めて認識することができた。

・四季折々の自然あふれる中島公園のフィールドを存分に生かした特徴ある事業として、参加者から好評を得ることができた。

・これまで培ってきた人形劇等における人材育成のノウハウを生かし、若い世代が指導者として次の世代への育成を担う流れをつくることで、持続可能な事業展開を進めていくことが期待できる。
・人材育成のための講座や講習会はやまびこ座・こぐま座の根幹を支える最も重要な事業の一つであり、事業参加者や劇団に対する的確な支援を継続して行うことが必要である。

・劇場が取り組んできた人形劇の裾野拡大、人材育成の成果を発揮することができた。

・市民と共につくる劇場、地域に根ざした劇場運営の観点から、一定の成果が表れていると捉え、今後もこの取組を継続強化していく。

【地域との共生および関係機関との連携】

・令和3年度受託し制作したアイヌ文化の理解を促進するための人形劇を、令和4年度は北海道内全域での巡回公演として依頼を受け、幼稚園や図書館等、21回の上演を行った。令和3年度からの関わりと実績を踏まえた依頼であり、これまで劇場が行ってきた業績が評価された結果ともいえる。役者には劇場で育成を行ってきた「パペットカレッジ」の大学生を中心とした若いメンバーを起用することで活躍の場を提供し、人形劇に対するより深い興味や意欲の向上を引き出すことができた。活動を通して成長していく若者たちの姿を頼もしく思うと同時に、これからの活発な活動が期待できる。

【社会貢献事業の取組】

・継続して取り組んできた福島県への継続支援活動は、コロナ禍の影響で当初の計画どおりとはいかなかったが、地元の方の要望もあり、期間を短くし現地に足を運び地域交流イベント等を実施することができた。東日本大震災から12年が経ち、支援の形も少しずつ状況に応じて変化を続けてきた。この事業を通しつながりができた様々な協力団体とは、今後また違う形で連携を続け新たな事業展開を模索していける可能性がある。

【展示室の活用およびその他】

・展示室を活用した絵画展や写真展等の特別展示、子どもたちの作品展示、ボランティアによる読み聞かせ事業「おはなしの会」など、市民や観光客にも気軽に足を運んでもらえる企画を行うことで、今後の利用につながるよう施設をPRする機会とすることができた。

※企画展示4回、ワークショップ3回、おはなしの会19回実施

やまびこ座と共同で人形劇観劇スタンプラリーを実施

カード発行枚数5,838枚(やまびこ座2,936枚、こぐま座2,902枚)

【中島児童会館との一体運営の取組】

・札幌の子ども文化の発信基地として、人材育成や文化体験機会を拡充するための発展的な事業展開(「まなび塾」「こども文化セミナー」、「企画展」「子ども向けワークショップ」等)を目指した。また、札幌の子ども文化を考える情報誌「MA・SO・BO通信(年6回)」の発行を行った。

※事業実績 別紙業務報告書参照

ア 利用状況実績

観劇者数	無料	2,322 人
	招待	390 人
	有料	6,279 人
	合計 (a)	8,991 人
出演者数(含むリハーサル) (b)		2,196 人
研修・見学者等の数 (c)		13,664 人
総数 (a+b+c)		24,851 人
上演回数		193 回
上演日数		123 日
仕込み・リハーサル・研修日数		152 日
上演1回あたりの観客数		46.6 人

利用人数 (前年度 12,927人・前年比192%)

イ 事業実績 別紙業務報告書参照

・今期の指定管理においては、公的助成や民間資金の活用による発展的な事業展開、財源確保を行うことを提案しており、今回の業務受託は劇場の専門スキルを生かした形で財源の確保につながった。

・子どもたちが明るい未来を描けることを願い協働してきた様々な関係団体と共に、今後は発展的な事業を実施できるよう取り組むたい。

・展示の入れ替え、MA・SO・BO通信の発行、専門書の貸出等、利用者獲得のための広報、利用者を惹きつける戦略を推し進めている。

・劇団員の新型コロナウイルス感染による公演の中止、こぐま座のアスベスト除去工事による3週間の臨時休館により、公演回数(200回)をやや下回った。しかし、その他の実績は令和2・3年度を大きく上回っており、健闘したと言える。

・令和4年11月まで観客の人数制限があったことにより、劇団の活動資金である入場料の収入が減少し、劇団の活動にも引き続き影響を及ぼしていた。

(2)子どもに関わる舞台活動の拡充に関する情報収集・調査研究・立案及び提供に関する業務

・関係機関の情報収集を行い、資料の整理を随時行った。市民からの要望に応じ、情報提供できる体制を作った。

・北海道庁より「アイヌ文化を題材とした人形劇巡回公演」依頼を受け、人形劇上演を全道21ヶ所で開催した。劇場のスキルを生かした関係機関との連携により発展的な事業展開をすることができた。

・北海道の地域に伝わる民話を題材とすることで、子どもたちに郷土の歴史や文化への理解を深めてもらう機会とすることができた。

(3)劇団育成支援に関する業務	<ul style="list-style-type: none"> ・劇団支援策として「札幌市こども人形劇場こぐま座支援事業」を実施した。(各劇団の中島児童会館占用利用について、使用料の一部を負担する) ※申請件数30件 ・運営協議会、利用者説明会、利用者アンケートを実施した。利用者(劇団)側からの様々な要望を聞くことができた。 ・市民ボランティア登録:19名(スタンラリーゆび人形制作(10名)、資料室MASOBOおはなしの会(7名)、イベント等の事業運営スタッフとして活躍した。) ・各劇団、ボランティアが劇場を通して交流する機会を提供した。 ①GWイベント(5月) ②開館記念祭「かもくま祭」(7月) ③札幌人形劇祭(11月)※やまびこ座と協働 ④MA・SO・BOカーニバル(1月) ⑤冬の野外劇場(2月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・劇団の育成のため、今後も継続して支援活動に取り組んでいく。 ・運営協議会、利用者説明会、利用者アンケート等を実施し、劇団側に十分な説明や意見交換を行うことで、施設の利用と協力体制を強化することができた。 ・市民ボランティアとの協働事業は、感染症対策を講じつつ実施した。
(4)人形劇等に関する指導、相談業務	<ul style="list-style-type: none"> ・人形劇の制作のための技術的指導ができる職員を配置し、日頃から人形劇について、指導、助言ができる体制作りに努めた。公演時や稽古時等において、適宜アドバイスをを行い、劇団側と協働してより良い作品づくりを行った。また、初心者のための人形劇講座を実施し、より多くの市民の方々が子どもの文化に携わり、担い手として育っていけるように環境を整えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者にとって丁寧にかかわることが制作活動の支援となっている。今後も劇団に対し、上演や作品創造に関するアドバイス、サポートをしていくために指導者、舞台スタッフの育成に取り組む。 ・人材育成事業等の広いニーズに臨機応変に対応できるような体制を整えることが課題である。
(5)その他	<p>特別事業の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ①サイトスペシフィック・パフォーマンス「コロポックルシンパヤ」 中島公園内各所に舞台を設置し、アイヌなどの様々な民話や物語を題材にした人形劇をウォークラリー形式で巡回しながら観劇する体験型人形劇ツアーを6月に実施した。 ②札幌国際人形劇フェスティバル(7月・3月) 福井県(7月)や福島県(3月)で活動するプロの人形劇団を招聘し、公演を実施した。 ③あおぞらキッズシアター拡大版「ピクニックシアターin中島公園」 全国各地から来たプロの人形劇団やパフォーマー、札幌近郊で活動するプロ・アマチュアの人形劇団が、中島公園各所のブースで公演を9月に実施した。 ④おそとで人形劇場 「あおぞらキッズシアター」「ほしぞらキッズシアター」として、こぐま座・中島児童会館前に特設ステージを設置して公演を実施した。 5月29日、7月30・31日、8月6・7・11日(8ステージ実施) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、コロナ禍において密を避けながら楽しく観劇できる「野外劇場」の集客効果が絶大であった。新規の観客が劇場に興味を持つ戦略の一つとして、次年度も継続していく。
5. 施設の利用等に関する業務		
(1)貸館業務計画	<ul style="list-style-type: none"> ① 受付カウンター業務 <ul style="list-style-type: none"> ・施設使用にあたっては、札幌市こども劇場条例及び札幌市こども劇場条例施行規則に基づき、申込受付を行った。施設利用者は、「札幌市こども人形劇場使用承認申請書」に記入の上、提出する。 ・受付時間:午前8時45分～午後5時15分 ・ホール使用にあたっては、3ヶ月前の1日から受付を行い、電話での仮申込も可とした。 ・各劇団の中島児童会館夜間占用利用については、こぐま座の自主事業『札幌市こども人形劇場こぐま座支援事業』として使用料の一部負担する。利用申込については、中島児童会館と協議の上、申請手続きを定め、申請様式を作成して実施した。 ・利用台帳を作成し、利用の調整を随時行った。 ② 施設の案内及び説明 <ul style="list-style-type: none"> ・公演時の観客対応、劇団の施設使用時、日常の来館時の問い合わせ、電話対応などにおいて、施設、公演など案内及び説明を行った。 《令和4年度施設見学実績》 7月12日 資生館小4年生 70名 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用申込受付については、条例に基づき、適正に処理を行った。特に問題はなかった。 ・こぐま座支援事業については、事務フローを作成し、適正に処理を行った。 新型コロナウイルス感染症対策についても丁寧に説明、対応した。

	<p>③ 備付物件の貸出と管理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公演のリハーサル、準備、本番時において、劇団への備付物件の貸出を行った。また、使用後の確認及び点検を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平日頃より備品等を点検確認し、利用者の使用に支障が生じないようにした。 								
(2)使用承認等に関する業務	<p>① こども人形劇場の使用申込の受付及び使用の承認、不承認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設使用承認にあたっては、札幌市こども劇場条例及び札幌市こども劇場条例施行規則に基づく。提出された「札幌市こども人形劇場使用承認申請書」を精査の上、承認する。その際に「札幌市こども人形劇場使用承認書」を発行する。 ・不承認について該当事例なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設使用承認については、条例に基づき、適正に処理を行った。 								
	<p>② 施設使用にあたって、特別の設備を設け、又は特殊な物件を搬入しようとするときの当該行為の承認、不承認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当事例なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・該当事例なし。 								
	<p>③ 使用承認等の条件の変更、施設の使用の停止命令又は使用承認等の取り消し</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当事例なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・該当事例なし。 								
	<p>④ 利用料金の徴収事務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・札幌市こども劇場条例及び札幌市こども劇場条例施行規則に基づき、劇場使用料の徴収事務を行う。使用料については、下表のとおり。 ・利用者数は目標を超えたが、上演日数及びホール稼働率については、アスベスト除去工事等により、未達成となった。それに伴い、利用料金についても計画時の見込をやや下回った。 <table border="1" data-bbox="384 891 1098 1131"> <thead> <tr> <th colspan="2">単 位</th> <th>使 用 料</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1回の公演につき</td> <td>同一のプログラムによる上演が1回の場合</td> <td>入場料等の総額の5%に相当する額</td> </tr> <tr> <td>同一のプログラムによる上演が2回以上の場合</td> <td>入場料等の総額の10%に相当する額</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和4年度利用料金収入総額…209,510円</p>	単 位		使 用 料	1回の公演につき	同一のプログラムによる上演が1回の場合	入場料等の総額の5%に相当する額	同一のプログラムによる上演が2回以上の場合	入場料等の総額の10%に相当する額	<ul style="list-style-type: none"> ・劇場使用料の徴収事務については、条例に基づき、適正に処理を行った。
	単 位		使 用 料							
	1回の公演につき	同一のプログラムによる上演が1回の場合	入場料等の総額の5%に相当する額							
同一のプログラムによる上演が2回以上の場合		入場料等の総額の10%に相当する額								
<p>⑤ 利用料金の減額若しくは免除又は還付に関する事務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当事例なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・該当事例なし。 									
<p>⑥ 入場の制限その他施設の秩序維持に関する事務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当事例なし。 	<ul style="list-style-type: none"> ・該当事例なし。 									
6. 管理業務に付随する業務										
(1)広報業務	<ul style="list-style-type: none"> ・独自ドメインを取得し、よりわかりやすいホームページURL (https://koguyama.jp)に変更した。ウェブアクセシビリティを考慮し、誰もが利用しやすいホームページを目指した。ページビュー数は244,022件で、前年度比(237,314件)103%という結果になった。 ・公式SNS(Twitter、Facebook、Instagram)や無料通信アプリLINEによる公演情報の発信を積極的に行い利用者の利便性向上と集客につなげることができた。 ・定期的に(年6回)こどもの劇場通信(公演情報、事業案内等)、MA・SO・BO通信(子ども文化の発信)をやまびこ座と共同で発行し、市内公共施設、関係機関、児童会館等、及びやまびこ座近隣小学校5校へ配布した。また、公演ごとに来館者へ配布した。 ・公演情報を各報道機関等に提供する等、宣伝活動に努めた。また、チラシ・ポスターを作成し、市民への配布のほか、地下鉄駅や劇場館内への掲示を行い周知を図った。 ・公益財団法人さっぽろ青少年女性活動協会発行のさっぽろ・こども情報誌「あそぼ」(市内全小学生配布)に、公演情報を毎号掲載した(年6回各10万部発行)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広報業務は、劇場の認知度向上と観客数に直結する重要なものであるとの認識のもと、常に情報発信を行っている。令和4年度はSNS等での事前の情報発信を適宜行い、公演等の集客につなげる流れを確立することができた。 ・ウェブ予約が浸透したことで予約状況を事前に把握でき、効率的に広報等の対応を進めることができた。予約受付時や劇場通信等の広報物にキャンセル時の連絡を継続してお願いしたことで、前年度に比べて当日キャンセルの件数が減少した。今後も利用マナー向上のため、必要な呼びかけ等を行っていく。 								

(2)施設ホームページのウェブアクセシビリティの確保	・札幌市公式ホームページウェブアクセシビリティの方針に準じて、アクセシビリティの維持・向上に努め、ホームページの更新を行った。	・ウェブアクセシビリティを考慮し、誰もが利用しやすいホームページを作成した。
(3)引継ぎ業務	・前回から継続指定のため、引継業務なし	
7. 札幌市内の企業等の活用について		
(1)市内企業等の活用、福祉施策への配慮等	・第三者に対する業務委託、物品の調達等を行うにあたり、札幌市内の企業等を積極的に活用している。	
8. その他		
(1)自主事業の実施	<p>《物品販売事業》 市民サービスの一環として、マスコット人形や人形劇キット、手づくりおもちゃ、オリジナルグッズ等の販売を各人形劇公演時に実施。集客の一助、リピーターの確保等につなげ、公演の活性化を図る。 実施期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日 販売商品： ①ハンドパペット 金額：150円～800円 ②オリジナルグッズ(こぐまちゃんラバーストラップ、ピンバッジ等) 金額：50円～1,785円</p> <p>【販売実績】 ①ハンドパペット：販売個数 39個 売上額 25,400円 ②オリジナルグッズ：販売個数 469個 売上額 90,250円 合計：販売個数 508個 売上額 115,650円</p>	・市民サービスの一環として物品販売を実施した。休館期間が長かったこと、入場制限等により売り上げは伸びていない。引き続き、来場者に喜ばれる新たな商品開発を行い、観劇の記念に残る品物と親しみやすい劇場に繋がるよう販売を行う。
(2)改修工事・大規模修繕について	・札幌市こども人形劇場こぐま座ホール空調機修理(札幌市発注)2月 ・札幌市こども人形劇場こぐま座舞台天井アスベスト除去業務(札幌市発注)2月	
(3)映画等の撮影の申し出を受けた場合の対応	・該当事例なし。	

2 アンケートのまとめ

1. 実施目的	施設利用者に対してアンケートを実施し、利用者の満足度や市民からの要望、意見を集約していくことで、業務を振り返り、業務の改善に反映させるよう努める。
2. 実施内容及び実施方法	<p>観客用アンケート、利用者(劇団)アンケート、事業別参加者アンケートをそれぞれ作成し、実施。</p> <p>① 観客用アンケート 各公演時において、来館した観劇者に対しアンケートを配布。公演の周知方法、これまでの来館数等の回答者についての設問や劇場の設備について、職員の対応等の設問、また具体的なお芝居の感想に対し、回答していただいた。記名方式(無記入可)。</p> <p>② 利用者(劇団)アンケート 劇場を利用する劇団に対し、アンケートを実施。普段、劇団の活動で劇場を利用するに当たり、劇場の使いやすさや職員の対応といったソフト面とハード面の両面について回答していただいた。実際にお芝居を創っていく上での環境、職員の支援体制、劇場の設備について、職員の対応等に対する設問。記名方式(劇団名、氏名 無記入可)。</p> <p>③ 事業参加者アンケート 事業参加者(受講者)に対し、各事業ごとの終了後にアンケートを実施。事業プログラム内容や講師、担当職員の対応、施設の使いやすさ等について回答していただいた。記名方式(無記入可)。</p>

3. アンケート結果

	観客用アンケート	利用者(劇団)アンケート	事業参加者アンケート				
			こども人形劇団	文化セミナー(真珠まりこ・サトシ)	こどものまなび塾 I期~IV期	パペットカレッジ	パペットユーススクール
① 実施期間	4月1日~3月31日	4月1日~3月31日	4月~3月	8月27日・1月22日	9月2日~1月15日	8月16日~1月29日	5月24日~1月28日
② アンケート回収枚数(枚)	1,584	24	14	33	8	9	13
③ 職員の対応、説明(点)	4.6	4.8	4.7	4.5	4.8	5.0	5.0
④ 劇場の設備(点)	4.4	4.6	4.6	4.2	4.8	5.0	5.0
⑤ 観劇のマナー(点)	4.3						
⑥ 芝居づくりの上での施設の環境整備(点)		4.6					
⑦ 芝居づくりの上での劇場のサポート(点)		4.5					
⑧ 利用申込、手続きの仕方(点)		4.4					
⑨ 事業プログラム内容(点)			4.9	5.0	5.0	5.0	5.0
⑩ 講師について(点)			4.8	5.0	4.9	5.0	5.0

	事業参加者アンケート					
	ワークショップ(小島加奈子)	ワークショップ(真珠まりこ)	ワークショップ(あんぱいたかし)	ワークショップ(かとうまふみ巨大絵本)	初心者のための人形劇講座	指人形制作ボランティア
① 実施期間	7月17日	8月27日	10月15日	3月5日	4月21日~7月14日	4月20日~3月25日
② アンケート回収枚数(枚)	9	15	8	8	7	6
③ 職員の対応、説明(点)	4.6	4.9	4.3	4.9	5.0	4.5
④ 劇場の設備(点)	4.2	4.5	4.5	5.0	4.9	4.5
⑤ 観劇のマナー(点)						
⑥ 芝居づくりの上での施設の環境整備(点)						
⑦ 芝居づくりの上での劇場のサポート(点)						
⑧ 利用申込、手続きの仕方(点)						
⑨ 事業プログラム内容(点)	4.7	4.9	4.7	5.0	4.6	4.5
⑩ 講師について(点)	4.2	4.8	4.6	5.0	5.0	4.5

4. 評価及び考察

①観客用アンケート

- ・職員の対応について…親切にしていた、笑顔で挨拶してくれたなど、好意的な意見を多くいただいた。引き続き来場者に喜ばれる空間づくりと接客を目指していく。
- ・設備について…児童会館と隣接しており、上演時間まで利用できることがよかった。休憩の間に換気をしておりコロナ対策が行き届いている、古い建物だが大切に使われている。これからも存続して欲しいという意見が多かった。
- ・環境について…観客席の段差が大人には低く座りにくいという意見があった一方、段差があり、こどもに配慮してある、座布団がありアットホームで良かった、ステージとの距離も近く良く人形が見えたなどの意見があった。

②利用者(劇団)アンケート

- ・支援体制について…「とても良い」「良い」の回答が多かった。また、道具や機材が充実している、スタッフがそろっていて安心する等の意見をいただいた。
- ・施設サービスについて…地下鉄駅から近く利用しやすい、搬入やステージの広さが良い等の意見をいただいた。
- ・職員について…いつも丁寧な対応、顔見知りになっていて気軽に相談できるなどの意見もあった。今後も利用者に満足いただけるよう取り組んでいく。

③事業別参加者アンケート

- ・主催事業より、11事業についてアンケートを実施。130名より回答
- ・事業内容について…どの事業についても「とても良い」「良い」の回答を多くいただき、施設サービスについても「説明が丁寧だった」「安心感があった」など高評価が得られた。今後も利用者の満足を得られるよう各事業の充実を図る。

5. 全体を通して	アンケート全般に関して、どの分野においても「とても良い」「良い」が大半を占めており、利用者に満足いただくことができた。また、劇場への要望・意見の中で多く見られたのが、「コロナ禍でもやって頂けて感謝している」「長く続くことを祈っています」「大人になってからもまた戻って来たくなくなるような存在であり続けてほしい」「古い味が合って良い。今のままでいてほしい」「子供のときに見に来て自分の子供と一緒に見るのが夢でした。夢が叶いました」など好意的で温かみある意見が多かった。一方、設備環境に対しては「寒かった」「暑かった」や、「キャッシュレス決済ができるとよい」「入口が混み合う」などの意見もあったため、時代や時勢に合わせた取組を迅速に行っていくと共に、利用者により満足していただけるよう努めていきたい。
-----------	--

3 令和4年度管理業務総括

1. 総合評価	<p>令和4年度で3年が経過した新型コロナウイルス感染症の対応も、その終息に向けて期中で一進一退の状況もあったが、感染拡大防止と社会活動再開との両にらみで様々な対策を講じ、懸案であった劇場ガイドライン改訂に伴うホールの客席制限の緩和など、文化芸術活動も少しずつ日常に戻りつつある。しかし、公演の動員人数や事業規模の縮小などについては引き続き影響を受ける結果となった。</p> <p>今年度の特徴的な公演事業として、野外人形劇シリーズとして実施した「ピクニックシアター」事業が挙げられる。昨年度こぐま座開館45周年記念事業として計画したが止む無く中止となった、サイトスペシフィック・パフォーマンス「コロポックル・シンパヤ」と、新規に実施したあおぞらキッズシアター拡大版「ピクニックシアター」の2事業である。コロナ禍で実施を重ねてきた野外人形劇も、今年度からは公演だけではなくワークショップや遊びの要素も取り入れ、中島公園の立地とフィールドを活かした実施で、子どもの文化芸術活動の体験機会を数多く創り出すことができた。また、野外での実施ということで、これまで劇場と接点が少ない市民へのプロモーションと関心を引き出す機会となった。</p> <p>昨年度に引き続き演劇分野の団体や専門アーティストと協働で、障がいのある子どもたちと創る「北のおぼけ箱2」の創作を行った。また、新たに文化庁の「障害者等による文化芸術活動推進事業」を受託し、近隣小学校の特別支援学級と人形劇創作活動に取り組んだ。今後重点的に取り組む社会課題の解決に向けた取組の一つとして、「文化芸術の持つ社会的包摂機能の推進」を進める足がかりとなったと言える。</p> <p>人材育成事業も、様々な市民を対象にした講座事業を中心に継続して実施してきた。その中で、児童会館7館と協働で実施している人形劇クラブが活発に活動を重ね、今年度、世界人形劇の日(3月21日)に「札幌市児童会館人形劇フェスティバル」を新規で実施した。これまで継続して取り組んできた子どもたちの人材育成が実りつつあり、国内のみならず世界に札幌の子どもたちの特徴的な活動を発信した成果は大きい。</p> <p>北海道庁から「アイヌ文化を題材とした人形劇巡回公演」の依頼を受け、昨年度制作した人形劇を道内の幼稚園等で21回の公演を実施し、文化芸術普及活動につなげることができた。コロナ禍で子どもたちの文化芸術に触れる機会が失われている中、今後も外部の団体や協力者と連携することで、改めて「札幌の子ども文化の取組」を広く発信していく。</p> <p>①数値実績 目標である年間公演回数200回には届かなかったものの、193回(前年度比131%)となり、コロナ禍でも公演活動を継続できるよう劇団支援を行ってきた成果は大きい。また、観劇者数も8,991人(前年度比114%)となり2年間の落ち込みを回復しつつある。 今後は新型コロナウイルス感染症流行の影響で離れてしまった観客に、いかに戻ってきていただくかを劇団の皆さんと共に知恵を絞っていきたい。</p> <p>②収支状況 令和4年度は当初想定していたより新型コロナウイルス感染症の影響を受けた。客席の人数制限や利用制約に伴う内容及び回数変更により助成金が減額された。しかし、新規の受託事業を請けたことによる増収もあったが、結果としてマイナス計上となった。</p>
---------	--

<p>2. 基本方針及び 来年度以降の重点 取組事項</p>	<p>基本方針 『豊かな子ども文化に彩られた未来創造のまち・さっぽろ』</p> <p>やまびこ座、こぐま座が担うべき役割は、社会的情勢や行動変容に伴い変化し続けている。これまでの、多くの子どもたちが人形劇や児童劇等の生の芸術文化に触れる機会の提供を中心とした「鑑賞型事業」から、近年の生活様式の変容や人口減少に伴う子どもの数の減少によって「体験型事業」にシフトしてきた。そして、これからはSDGs(持続可能な開発目標)が示す“誰一人取り残さない”世界を目指すための共生社会の構築、多様な価値観を許容できる社会づくりに文化芸術が貢献していかなければならないと考える。子どもから大人まで様々な人間同士がお互いを理解し合い、共に創造的な活動を行うことで心豊かな活力ある社会形成につなげていく。</p> <p>これまでのやまびこ座、こぐま座が持つ創造性や、「人を育てることが文化を育てる」という考えに基づく人材育成事業を柱に、関係団体と共に公演事業、創造型事業を推し進める。また、子どもから大人まで、様々な世代への育成事業を積極的に展開することで、人形劇、児童劇等の裾野を拡げ、さらに若い世代が指導者として次の世代への育成を担う流れをつくることで、持続可能な劇場づくりを目指す。</p> <p>コロナ禍で子どもたちの体験機会が減少した昨今、劇場が取り組んできた子どもたちの文化体験機会を守る活動等が注目され、北海道内外の行政機関や公共施設、学校教育現場、地域町内会等からの相談や依頼が増えている。これまでの経験や技術、様々な文化団体・関係機関とのつながりや連携をより強固なものとし、劇場の文化芸術にかかわるスキルを生かし、札幌市内から札幌市近郊の札幌圏、全道規模へ発信を広げ強化していく。</p> <p>こぐま座・やまびこ座・中島児童会館が、子どものための専門施設として連携を強化し、それぞれの施設が持つ特性を生かしながら、人材育成事業や、全市的なイベント等を実施し、文化発信拠点として特色ある運営を目指す。</p> <p>令和5年度はやまびこ座が開館35周年を迎える。記念事業として節目のイベントも織り交ぜ、良質な舞台芸術の創造発信、継続的な文化体験機会の創出を図り、未来ある子どもたちの夢と可能性を拡げ、子ども文化の必要性を社会に伝える。</p>
--	---

札幌市こども人形劇場こぐま座
令和4年度業務報告書

【事業実績】

(1)公演事業

区分	実施内容	実施日	ステージ数(回)	観客数(人)	備考
ア 一般公演	札幌市内で活動するアマチュア人形劇団を中心に毎週土、日曜日、祝日、そして、学校休業期間(春、夏、冬休み)には平日も含め、人形劇等の公演を行った。	4月～3月	193	2,810	
イ 団体観劇	幼稚園、保育園等の園外活動の一環として、団体観劇を実施し、こぐま座を有効活用した。	4月～3月	5	140	
ウ おそとで人形劇場 (あおぞらキッズシアター、ほしぞらキッズシアター)	コロナ禍における新たな劇場スタイルとして、野外で密を防ぎつつ子どもたちに舞台芸術に触れる機会を提供した。	5月29日 7月30・31日 8月6・7・11日	8	314	
エ こぐま座 サイトスペシフィック・パフォーマンス ピクニックシアター 「コロボックル・シンパヤ」～中島公園 イネップ(4つの)物語	前年度、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止した、こぐま座45周年を記念した野外人形劇公演。 アイヌなどの様々な民話や物語を題材にした人形劇を、中島公園内の4つのステージを回りながら物語を体感する観客参加型の人形劇ツアーを実施した。	6月25・26日	2	411	
オ 初心者のための人形劇講座 修了記念公演(試演会)	こぐま座、やまびこ座で初心者のための人形劇講座を実施し、合同発表公演を行った。	7月16日			※ やまびこ座にて上演
カ こぐま座夏の特別公演	普段あまり観ることができない北海道外の専門劇団を招聘し、こぐま座と市内児童会館2カ所(平岡・平岸高台小ミニ児童会館)で特別公演を実施した。 (人形劇団とんと/福井県)	7月26～29日	4	286	
キ ≪ あおぞらキッズシアター拡大版 ≫ 「ピクニックシアターin中島公園」	自然豊かな中島公園のフィールドを生かし、様々なパフォーマーが繰り広げる人形劇や遊びの仕掛けをピクニックしながら、ゆっくりと楽しむ事業を実施した。中島公園内で行うことにより、多くの市民へ人形劇の楽しさを知ってもらう機会となった。	9月10・11日	2	430	
ク 第51回札幌人形劇祭	人形劇の質的向上を目指し、北海道内で活動している人形劇団によるコンクール形式の連続公演を実施した。経験豊かな審査員と観客によって審査が行われた。	11月20・23日			※ やまびこ座にて上演
ケ パベットユーススクール発表会	中・高校生のための人形劇スクールを実施し、発表公演を行った。	1月28日	1	49	
コ パベットカレッジ発表会	大学生や若い世代の社会人を対象とした経験者の人形劇スクールを実施し、発表公演を行った。	1月29日	2	78	
サ こぐま座こども人形劇団発表会	1年を通して活動してきた『こども人形劇団』の修了発表公演を行った。	3月12日	1	64	
シ 「夏休み」「冬休み」「春休み」公演	学校の長期休みに合わせ、人形劇等の連続公演など、イベントを含めた公演を企画し実施した。 ※(1)ーア「一般公演」に含む。				
ス こぐま座春の特別公演	普段あまり観ることができない北海道外の専門劇団を招聘し、こぐま座と市内児童会館(金山児童会館)で特別公演を実施した。 (人形劇団赤いトマト/福島県)	3月29・30日	3	129	
合 計			221	4,711	

(2)各種講座等の育成事業

区分	実施内容	実施日	回数等	参加人数	備考	
ア	初心者のための人形劇講座	人形劇の楽しさを知ってもらうことにより人形劇の裾野拡大を図り、人形劇人の育成、グループ活動を推進することを目的に実施した。また、こぐま座、やまびこ座、両劇場の公演活動の活性化もねらい実施した。	4月21日 ～7月14日	昼コース (やまびこ座) 14 夜コース (こぐま座) 15	173	こぐま 97名 やまびこ 76名
イ	バベットカレッジ・経験者のための人形劇講座	大学生、若年層の社会人を対象とした経験者のための人形劇講座。劇団活動の継続支援と作品の質の向上を図るため、指導・助言・自立を促し、次世代の人材を育成することを目的に実施した。	8月16日 ～1月29日	47	316	
合計					489	

(3)子どもの舞台表現活動の推進

区分	実施内容	実施日	回数等	参加人数	備考	
ア	こぐま座こども人形劇団	札幌市内の小学校3年生から6年生を対象に、人形劇を通して、様々な表現活動を展開した。子どもたちならではの作品づくりを行った。	5月25日 ～3月5日	42	525	
イ	バベットユーススクール	中・高校生のための人形劇スクール。中・高校生の受け入れの場として開講し、中・高校生劇団の育成を目指した。	5月24日 ～1月28日	40	357	
合計					882	

(4)中島児童会館との協働事業

区分	実施内容	実施日	回数等	参加人数	備考	
ア	ゴールデンウィーク特別企画 バベットフェスティバル あそびの劇場	人形劇等の連続公演、あそびのイベントを実施した。東日本大震災チャリティー公演とし、入場料は全額支援活動費とした。	5月3～5日	7	277	
イ	特別ワークショップ	こぐま座歴史資料室「MA・SO・BO」の657美術館でのイラスト原画や写真展の開催期間に合わせて、絵本作家の方を講師に招き、ワークショップを実施した。その他、特別公演で来訪した劇団員によるワークショップも実施した。	7月17日 10月15日 11月24日	3	33	
ウ	こども文化セミナー	絵本作家等を講師としてお迎えし、大人を対象とした児童文化に関わる講演会を実施した。また、絵本を題材とした人形劇とのタイアップ企画を行った。 講師：真珠まりこ・サトシ	8月27日 1月21・22日	3	238	
エ	こどものまなび塾	中島児童会館と協働し、子どもの健全育成に携わりたい市民に向け、子どもとかかわること、遊び合うことを学ぶボランティア講座を実施した。	第1期 9月2日～17日 第2期 9月30日～10月15日 第3期 10月19日～22日 第4期 12月8日～22日	16	274	
オ	こどものまなび塾特別企画 MASOBOカーニバル	こどものまなび塾第4期の受講者が、職員やボランティアと一緒に「お化け屋敷」や「変身コーナー」などを計画し、実施した。	1月15日	2	168	
カ	資料室MA・SO・BO おはなしの会	資料室「MA・SO・BO」を活用し、資料室を広く市民に周知し、両施設に足を運んでもらうことを目的に幼児親子を対象とした読み聞かせサロンを実施した。	4月13日 ～3月22日	19	270	
合計					1,260	

(5) 地域、他団体との交流事業

区分	実施内容	実施日	回数等	参加人数	備考
ア	中島児童会館・こぐま座 開館記念祭 かもくま祭ミニ 前夜祭×ほしぞらキッズシアター 本祭×あおぞらキッズシアター	7月2・3日	3	296	
イ	アウトリーチ事業 資生館小学校 北海道拓北養護学校 新琴似中学校 特別支援学級	7月12日 9月8・14・15・29日 10月6・12・13日	8	503	
ウ	障害者等による文化芸術活動推進事業	12月6・7日	2	50	
エ	応援☆人形劇おでかけ公演 &舞台体験WS ～がんばろう子どもたち！児童会館編～	11月～1月	23	1,190	
オ	冬の野外劇場	2月11・12日	8	1,455	
合 計					3,494

(6) その他

区分	実施内容	実施日	回数等	参加人数	備考
ア	人形劇公演観劇 スタンプラリー	4月～3月		2,902	やまびこ座と 合同で開催 (*参加人数=カード 発行枚数)
イ	指人形ボランティア	4月～3月	12	95	
ウ	資料室MA・SO・BO	4月～3月	338	11,134	
エ	資料室MA・SO・BO 657美術館 絵本原画展	7月6日～31日 10月15日 ～11月13日 12月3日～25日 1月7日～31日	4	2,507	
オ	利用者説明会	3月16日	1	9	
合 計					16,647

令和4年度 自主事業(物品販売事業)報告書

	販売物品	単価(円)	販売数(個)	計(円)
1	手づくりおもちゃ (たけとんぼ)	100	74	7,400
2	やまびこ座・こぐま座との会製品 (ハンドパペット)	150	0	0
3	やまびこ座・こぐま座との会製品 (ハンドパペット)	400	0	0
4	やまびこ座・こぐま座との会製品 (ハンドパペット)	500	0	0
5	やまびこ座・こぐま座との会製品 (ハンドパペット)	600	0	0
6	やまびこ座・こぐま座との会製品 (ハンドパペット)	800	12	9,600
7	やまびこ座・こぐま座との会製品 (王子パペット)	900	0	0
8	やまびこ座・こぐま座との会製品 (こぐまパペット)	700	0	0
9	30th指人形	400	0	0
10	やまびこ座・こぐま座との会製品 (はらぺこ青虫くん)	600	23	13,800
11	やまびこ座・こぐま座との会製品 (ととけっこ)	600	0	0
12	やまびこ座・こぐま座との会製品 (指人形)	500	4	2,000
13	やまびこ座・こぐま座との会製品 (ハンドパペットキット)	150	0	0
14	オリジナル商品 (ポストカード)	50	2	100
15	オリジナル商品 (シール)	50	0	0
16	オリジナル商品 (ミニタオル)	200	8	1,600
17	オリジナル商品 (王子ピンバッジ)	350	0	0
18	オリジナル商品 (こぐまピンバッジ)	350	6	2,100
19	オリジナル商品 (王子ストラップ)	350	0	0
20	オリジナル商品 (こぐまストラップ)	350	19	6,650
21	オリジナル商品 (40thクリアファイル)	200	7	1,400
22	オリジナル商品 (30thクリアファイル)	200	9	1,800
23	オリジナル商品 (40thてぬぐい)	500	8	4,000
24	オリジナル商品 (30thてぬぐい)	500	5	2,500
25	フェルトブローチ	200	0	0
26	缶バッジ(大)	200	6	1,200
27	缶バッジ(小)	100	4	400
28	フェルト小物	300	29	8,700
29	ガチャポン	200	176	35,200
30	ガチャポン	100	102	10,200
31	コットントート	500	9	4,500
32	エコバック	500	5	2,500
33	オリジナル商品 (書籍)	1,785	0	0
合 計			508	115,650

